

む ら
「ディスカバー農山漁村の宝」 (第9回選定) グランプリ及び優秀賞

グランプリ

株式会社沖縄UKAMI養蚕 (沖縄県今帰仁村)

ビジネス・イノベーション部門

- ・6次産業化により地域の生物資源「エリ蚕 (神樹蚕)」から生産された沖縄シルクをスキンケア商品として加工し、ブランド化して海外進出。
- ・養蚕と飼料生産に廃校と荒廃農地を活用するほか、養蚕施設の整備や飼料生産のための高齢者雇用、蛹と繭の選別のための農福連携など人材活用。
- ・商品売上は400万円 (R元年度) から1,200万円 (R3年度) に、荒廃農地の活用は1.3ha (H29年度) から2.4ha (R3年度) に増加。
- ・絹産業の非繊維分野への進出に加えて、高齢者の健康長寿と、就労支援事業所の利用による障がい者の活躍と所得向上にも貢献。



優秀賞

ビジネス・イノベーション部門

伊根浦地区農泊推進地区協議会
(京都府伊根町)

- ・230軒が立ち並ぶ舟屋を活用した泊食分離の実現によって宿泊施設の開業を促進し、地域全体での農泊を推進。
- ・地域内の宿泊施設の売上が約8千万円 (H29年度) から約1.2億円 (R3年度) に増加。



優秀賞

コミュニティ・地産地消部門

オホーツク農山漁村活用体験型
ツーリズム推進協議会 (北海道網走市)

- ・交流拠点を網走湖畔に開設し、地元生産者等と連携して異業種間の連携強化を後押し。地域住民をガイドとして養成。
- ・体験コンテンツの参加者数が、120人 (H30年度) から898人 (R3年度) に増加。



優秀賞

個人部門

大石 巨太
(島根県奥出雲町)

- ・牛の放牧が創り出す風景に憧れて牧場として省力的に山を管理し、多目的に利用できるフィールドとして整備するとともに堆肥を土地に還元。地元のこども達に「牛のいる風景」を解放。
- ・農業生産額は約2,800万円 (H29年度) から約3,600万円 (R2年度) に増加。



優秀賞

株式会社四万十ドラマ
(高知県四万十町)

- ・「四万十川に負担をかけないものづくり」をコンセプトに6次産業化に取り組む「地域商社」を実現。
- ・「しまんと地栗工場」の建設により以前より約5倍の製造体制となるほか、芋農家との契約件数も21軒に (R3年度)。



優秀賞

瀬戸内かきがらアグリ推進協議会
(岡山県岡山市)

- ・瀬戸内の牡蠣の殻を加工粉碎して、農畜産物の生産・飼育に活用した農業を実施。
- ・米作への牡蠣殻の再利用量は42t (H29年度) から434t (R3年度) に増加。



グランプリ及び優秀賞選定に係る有識者懇談会委員の主なコメント

グランプリ

株式会社沖縄UKAMI養蚕

うかみようさん
なきじんそん
(沖縄県今帰仁村)

【有識者懇談会委員の主なコメント】

- ・世界を視野に、日本のシルクを小さな村から発信する取組は、とても優れた活動である。
- ・対象者視点で商品開発をしていくことで、大きく成長するビジネスにできると期待。
- ・廃校利用や農福連携、高齢者の雇用等の多くの課題の解決策を行っており、評価できる。

優秀賞 (ビジネス・イノベーション部門)

伊根浦地区農泊推進地区協議会

いねうらちく のうはくすいしんちくきょうぎかい
いねちよう
(京都府伊根町)

【有識者懇談会委員の主なコメント】

- ・人気の宿泊施設をさらに活用するために泊食分離を進め、より多くの観光客を呼び込んでいる。
- ・それぞれの強みを活かす形で「泊」と「食」を分離し、地域の理解を得ながら同じ目標に向けた動きを成功させている。
- ・宿泊と食事施設の充実化や、酒蔵、水産、金融機関と連携したビジネスを評価。

優秀賞 (ビジネス・イノベーション部門)

株式会社四万十ドラマ

しまんと
しまんとちよう
(高知県四万十町)

【有識者懇談会委員の主なコメント】

- ・第三セクターから完全民営化し、優れたビジョンで地域雇用と人材育成を実現。
- ・地栗を復活させる取組など、四万十川に負担をかけない事業を着実に進めている。
- ・HACCP取得、SNSによる発信と時代の流れに乗ったビジネス展開。
- ・プロデュース力が素晴らしい。

優秀賞 (コミュニティ・地産地消部門)

オホーツク農山漁村活用体験型 ツーリズム推進協議会

あばしりし
(北海道網走市)

【有識者懇談会委員の主なコメント】

- ・課題を解決するために民間・大学・行政が一丸となって進めている。
- ・オホーツクの大自然を個人の視点に落とし込める体験価値を提供。世界に通用する新しい観光の開発で、成長に期待が寄せられる。
- ・環境を生かし、さまざまな体験コンテンツを提供。行ってみたいと思わせる魅力がある。

優秀賞 (コミュニティ・地産地消部門)

瀬戸内かきがらアグリ推進協議会

(岡山県岡山市)

【有識者懇談会委員の主なコメント】

- ・循環環境保全型農業の成功例。SDGsの観点からも優良。
- ・廃棄物とされてきたかき殻を有効活用し、生産から消費までのバリューチェーンの中で新たな価値を創出している。
- ・400トンを超える廃棄物を再利用し、地域の米の課題対策に使用する取組自体が大いに評価できる。他の地域でも真似してほしい事例。

優秀賞 (個人部門)

大石 巨太

おおいし こうた
おくいずもちよう
(島根県奥出雲町)

【有識者懇談会委員の主なコメント】

- ・規模、熱意、アイデア優秀。将来性有望。
- ・キャッチフレーズ「地域に開かれた200年後も残る牧場づくり」が優れており、コロナ禍でも着実に実績をあげている。
- ・スケール大きく、長期ビジョンを掲げて持続可能性を高める仕事と暮らしを実現している。
- ・観光とともに、多様な方との連携もとても素晴らしい。

特別賞

HOPE・希望賞
(あん委員推薦)



てんめいかんきょうほげんたい
天明環境保全隊
(熊本県熊本市)

- ・子ども達に地元の魅力・歴史を伝えるため、小中学校への出前講座や田んぼの学校の開催、生き物調査を実施するほか、しめ縄作りなどの伝統文化を普及。



【あん委員のコメント】

- ・持続可能な取組である点を評価。

特別賞

スマート水産業賞
(今村委員推薦)



株式会社リブル
かいようちょう
(徳島県海陽町)

- ・データやアプリを活用して養殖技術の見える化を図り、養殖技術支援と強い種苗の生産の新規産業を創出。IT技術を駆使する水産業への、子ども達の理解醸成を図る。



【今村委員のコメント】

- ・養殖技術のAI化により、牡蠣養殖が世界中に広がる夢がある点を評価。

特別賞

優れた景観賞
(織作委員推薦)



いなぐら
稲倉の棚田保全委員会
(長野県上田市)

- ・棚田の保全や多面的機能向上に、五穀豊穰等祈念に松明を持って歩く「ししおどし」や農業体験受入等を実施。棚田オーナー制度、酒米オーナー制度を導入。



【織作委員のコメント】

- ・キャンプや「ししおどし」等、夜の美景観イベントを評価。クラインガルテンのキャッチフレーズ「日本一おせっかいするクラインガルテン」もよい。

特別賞

エンカレッジ賞
(田中委員推薦)



稲作本店
(栃木県那須町)

- ・『米を作るな、未来を創れ!』「田んぼでカフェ、キャンプ」の開催や米粉ワッフル、ポン菓子「イナポン」など製造販売。田んぼの魅力を発信しながら発展。



【田中委員のコメント】

- ・力強いスローガンでユニークな活動を展開していて、参加してみたいくなる波及効果、影響力を出している点を評価。

特別賞

スポーツ連携賞
(永島委員推薦)

えちごつまり
NPO法人越後妻有里山協働機構
とおかまちし
(新潟県十日町市)



- 女子サッカー選手など多様な人材による棚田保全等。サッカーチームをつくり、その選手らが農業、サッカー教室や講演を実施し、活性化に寄与。



【永島委員のコメント】

- スポーツ選手と農業の連携を評価。スポーツ選手のセカンドキャリアとしての連携への拡大の可能性あり。

特別賞

若者とっとり賞
(林座長推薦)

ばんくあつぷ
NPO法人bankup
(鳥取県鳥取市)



- 大学生ボランティアの農村派遣を20年以上継続。地域活動のプロジェクトをおもしろいネーミングで運営。食と農林漁業大学生アワードで農林水産大臣賞。



【林座長のコメント】

- 大学生ボランティアが多方面で農業活性化に活躍し、地域発展に貢献している点を評価。

特別賞

NOUHAKU賞
(藤井委員推薦)

一般財団法人丘のまちびえい活性化協会
びえいちょう
(北海道美瑛町)



- 畑の大切さを伝えるガイドの案内で、景観と農と食を結ぶ本物体験型プログラムを展開。観光マナー問題の解決に向け、農泊事業を通じ生産者と一体となって実施。



【藤井委員のコメント】

- 観光マナー問題への対策として、啓蒙を兼ねた観光コンテンツをビジネス化したことを評価。

特別賞

ジビエ賞
(三國委員推薦)

高知商業高等学校ジビエ商品開発・販売促進部
(高知県高知市)



- 地元のシカやイノシシ肉を原料として商品開発を行い販路拡大に寄与。クラウドファンディングで森林保護活動の資金を調達し返礼品にジビエ商品を活用。



【三國委員のコメント】

- 高校生でありながらジビエを有効活用している事例。

特別賞

たかぎ みきお
高木 幹夫
おおぶし
(愛知県大府市)

むらの宝食文化賞
(向笠委員推薦)



- ・地元の在来タマネギから播種作業を始めて40年以上、種苗会社が扱わない「あいちの伝統野菜」21品目35品種を栽培・播種するほか、講演など普及活動を実施。



【向笠委員のコメント】

- ・伝統野菜伝承活動の基本となる採種を40年以上続けてきたご苦労に拍手！

特別賞

株式会社やまもとファームみらい野
(宮城県山元町)

地域復興大賞
(横石委員推薦)



- ・震災復興のなか営農組合を設立。平成29年に「復興創生とまと」として初出荷。令和3年、さつまいもの輸出を開始。被災住民支援に、ICT制御システムのデータを共有。



【横石委員のコメント】

- ・津波被害を受けた中で好調な優良事例。

有識者懇談会委員

| | |
|-----------|---|
| あん・まくどなるど | 上智大学大学院教授、慶應義塾大学特任教授 |
| 今村 司 | (株)読売巨人軍代表取締役社長 |
| 織作 峰子 | 大阪芸術大学教授、写真家 |
| 田中 里沙 | 事業構想大学院大学学長、(株)宣伝会議取締役 |
| 永島 敏行 | 俳優、(有)青空市場代表取締役 |
| 林 良博 (座長) | 国立科学博物館顧問、東京大学名誉教授 |
| 藤井 大介 | (株)大田原ツーリズム代表取締役社長、(株)ファーム・アンド・ファーム・カパニー代表取締役社長 |
| 三國 清三 | ホテル・ドウ・ミクニ オーナーシェフ |
| 向笠 千恵子 | フードジャーナリスト、食文化研究家、郷土料理伝承学校校長 |
| 横石 知二 | (株)いろいろり 代表取締役社長 |

(五十音順、敬称略)